

山梨県立女短大 小菅啓子 東京家政学院短大 ○田原靖子 高野美栄  
青葉学園短大 芦澤昌子 東京家政大短大 長塚こずえ

目的 21世紀は高年齢化社会となり、人々の生活感情は豊かさ、健康、安全性が優先される。服装においても、これまでの暗いイメージから若々しさが好まれ、生き生きとした自然回帰の傾向となるであろう。現在老年期の人々の服装色はどうであろうか。この問題を明らかにするために調査を試み、被服設計の資料を得ることを目的とした。

## 方法

- 1) 対象 2) 調査時期  
3) 手続き 4) 場所  
(1~4 報同様)

性別	員数	嗜好色				着 装 色			
		洋 装		和 装		洋 装		和 装	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
男	574	357	217	0	0	354	213	3	4
女	1526	977	549	0	0	953	522	24	27

結果 着装したい色彩は男女とも老年前・後期を通して青紫系の暗い紫みの青、灰が多くトーンはダーク、デープ、ブライトに集中していた。性別では男性は青紫系、灰が多く、女性は明るい青紫系、紫系、赤紫系であった。地域別では東北以北は暗い青紫系、灰が多く関東では明るい紫系、青紫系、赤紫系、東京と関西以西は暗い青紫系、灰、白であった。地域差はやや認められる。高齢者の色彩は、流行色に関心をもつ被験者も存在した。着装している色彩は、男性は青紫系、灰、女性は明・暗紫系、明るい青紫系であった。和装の場合、洋装よりもトーンが幾分ライトである。地域別では、東北以北よりも関東、関西以西の方が僅かであるが明るい色彩を着装していた。概して、着装している洋服の場合、色彩は青系、和服は紫系である。全般に、高齢者は落ち着いた色彩を好んでいる。季節の影響も認められた。